

Ⅱ 巡回指導教員の効果的な活用について

◎ねらい

児童生徒の学力を高めるため、教科指導において豊富な経験と高い専門性、実践的指導力を有する教員が、学力向上に積極的に取り組もうとする複数の学校を巡回し、若手教員等の指導、授業づくりにかかわる支援等を行う。

◎主な業務

- 若手教員等への指導
- 授業づくりにかかわる支援 等

◎1週間の勤務時間例

A巡回指導教員（名寄小…週当たり16時間） 兼務校…名寄東小・豊西小

	月（本務校）	火（兼務校1）	水（本務校）	木（兼務校2）	金（本務校）
1校時		1年生			
2校時	4年生	3年生	6年生	2年生	1年生
3校時	5年生	4年生	4年生	4年生	6年生
4校時	1年生	5年生	5年生	6年生	
5校時			6年生		
6校時					

B巡回指導教員（名寄西小…週当たり15時間） 兼務校…名寄南小・風連中央小

	月（本務校）	火（兼務校1）	水（本務校）	木（本務校）	金（兼務校2）
1校時	1年生	5年生	1年生		
2校時	4年生	4年生	4年生		5年生
3校時	2年生	6年生		2年生	
4校時	2年生			2年生	3年生
5校時					5年生
6校時					3年生

授業者が事前に指導略案を書き、それに巡回指導教員がコメントを入れて授業にのぞむようにしています。

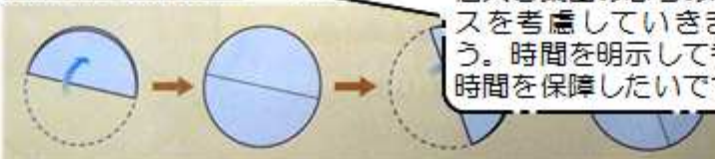
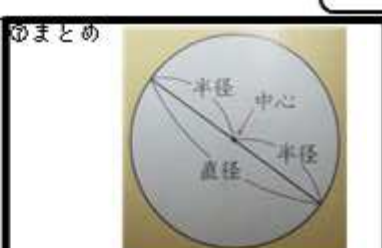
◎実践例

算教科指導略案（○月△日◇校時） 授業者 ○○○○



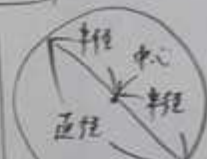
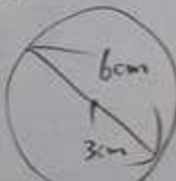
- 1 単元名 「円と球」
- 2 単元の目標；指導書に準ずる。
- 3 学習計画；指導書に準ずる。
- 4 本時の授業
 - (1)ねらい；指導書に準ずる。
 - (2)目標；指導書に準ずる。

(3) 展開

※吹き出しは巡回指導教員からのコメント

	学 習 活 動	◎工夫・留意点
つかむ	○問題を群読・板書し、全体で内容をつかむ。 ①問題 茶わんなどを写してかいた円には、はりをさしたあとがありません。中心の見つけ方を考えましょう。	最初に前時の復習を入れると本時の内容が際立ちます。
見通す	②中心から円の周りまでの長さは、どこを調べても等しい ③課題 円の中心を見つけよう。 (主)発問 どのようにすれば、円の中心を見つけられるでしょうか。	・全体に中心のわからない円形の紙を配布する。 課題
考える	④円の半径はすべて等しいからものさしではかる 正方形の折り紙を等分した時を思い出して円形の紙を折って	大切な発想です。こちらから提示してもいい考えですね。 円の中心を見つける必要感を！例えば、模型の車のタイヤ・車輪の軸を作るときや円い缶の真ん中に穴を開けたいときなど。
広げる・深める	⑤考え方を交流する。 	個人と集団の思考のバランスを考慮していきましょう。時間を明示して考える時間を保障したいですね。 ・折り目の線が1点で交わることに気づかせる。 ・それぞれの折り目の長さを調べて、折り目が交点で2等分されていることを確認する。
まとめる	⑥実際に操作させる。 ⑦まとめ  ⑧教科書P30 たしかめ☆3を解き、全体で答え合わせをする。 ○自己評価をおこなう。	2回以上も折れば中心は見つかります。何回折っても中心を通ることを確認して、2回折れば発見できることに気付くといいですね。 ・児童が実際に折った紙に記入させる。(理解を深めるための工夫) すごくいいと思います。

(4) 板書計画

<p>問題 茶わんなどを写してかいた円には、はりをさしたあとがありません。中心の見つけ方を考えましょう。</p> <p>一つの円の半径は、すべて等しい</p> <p>課題 円の中心を見つけよう。</p>	<p>学び合う</p> 	<p>解決</p> 	<p>まとめ</p>  <p>直径は半径の2倍!</p> <p>たしかめ</p> <p>☆</p> 
---	---	--	--

◎板書計画例

○/△ 単元名 (教科書ページ)		
①問題文；子どもの算数ノート のマス数に合わせます。	⑤個人の学習時間の確保	⑦まとめ 課題に対して、本時の まとめをします。
②問題文からわかったことや気 付いたこと、前時の学習と違 うところなど	⑥個人学習の考えの交流 ・直接黒板に書いて交流 ・ミニ黒板を貼って交流 ・ワークシートを貼って交 流 ・ノートを拡大投影機で大 きくして交流 等々	⑧たしかめ問題 ・教師作の問題 ・教科書P〇の問題 等々
③課題		
④見通し (解決への見通し立て) ・解決方法 ・答えの見通し		

◎事後指導 (メールで) ◇校時 3年算数「円と球」 ○〇先生へ

【子どものための教室環境】

フラッシュがすぐできるようにPCにつながっているテレビや実物投影機の準備、話合いのルールや説明のための言葉が掲示され活用されています。まさに子どもが活動しやすい環境にあるなあと思いました。すぐに使えるようにしていることは小さいことのように、実はとても大きなことであると思います。教師がその準備に時間をかけないので、子どもたちの活動の切り替えがはやくなっています。4月当初に比べて動きがとてもスムーズになってきました。このような教室環境は、たいへん参考になるなあと感じました。

【発表のしかた】

発表の仕方がぐんぐんうまくなっている3年生を見て、「ぜひこれも！」と思うことがありました。それは「算教用語を使って説明しよう」ということです。今日の△△さんの発表に象徴されるように、「はじめに」「つぎに」を使うと順序はわかるのですが、聞いている子どもたちの反応は「？」というものでした。それは、どこのことを言っているのかが説明だけではわからなかったのかなと思いました。今日でいえば、「中心」「半径」「円」という前時までに出た用語を使って説明すると、より伝わりやすい発表になるのかなと思います。例えば、「円の半径はどこも等しいので、どこから測っても4cmになるところが中心だと思います。はじめに…」なんて発表を目指すといいですね！ステップ①が説明のことは「はじめに」「つぎに」…で、ステップ②が「その教科の用語を使おう」ということになります。教師側がちょっと意識するだけで、ガラッと変わるポイントなので、発表の力がぐんぐん伸びてきている3年生にぜひ試してみてください。

◎成果と課題

○授業者が事前に学習指導案を提示することにより、巡回指導教員が工夫改善のポイントを絞って授業を参観し、効果的にアドバイスすることができた。また、授業者も自信をもって授業が展開することができるようになった。

○巡回指導教員が基礎基本の定着を図る授業づくりを継続的に支援したことにより、教員が子どもの確かな成長を実感することができた。

●学校行事の実施時期に兼務校との時間調整が難しい。今後はさらに綿密な連絡調整を行う必要がある。